

「茎1本で空に伸びあがる日に向けて」

県立神戸高等学校長
新谷 浩一

○ 彼岸花が好きなのです

多可町で働く仲間のひとりから写真を添えてメールが届きます。「先生が好きだと言われていた彼岸花が咲き始めました」とのメッセージ。別名は曼珠沙華とも言います。春には桜、夏には向日葵、秋には彼岸花を愛でる私は、ここ数年は道沿いに咲き並ぶこの花を見るために、多可町に通っていたものです。それでも今年はスケジュール的に難しいかな、と諦めていたところだったので、嬉しい贈り物になりました。



そう言えば昨年の2学期始業式でこの花について話をしましたね。あの時はまだここに居なかった81回生のために当時の通信を添えます。加えて、この花への思いを寄せた私の古い通信も添えますね。著作権のこともあり、題名こそ無題ですが自分の心持ちがかなり明白に書かれた通信なのです。



さて、皆さんが燃えに燃えた合唱コンクールも今日の1年生大会で締め括りですね。勝ち残った6クラスの合唱を聴くことのできる音楽会が今から待ち遠しいです。また、音楽会と言えば夏の名残りが色濃く残る校庭で、ひたすらマーチング練習に励んでいた吹奏楽部を始めとする文化部の皆さんの演奏も楽しみです。

一方、一足先に大きな舞台に立ったのが合唱部です。見事に県予選を勝ち抜け、先週、大阪府枚方市で開催された第81回関西合唱コンクールに出演を果たしたのです。当日の招待券もいただいた私ですが、さすがにホール内での応援や撮影はご法度です。そこで辿り着いた結論は「貸し切りバスで会場に向かうところなら両方できるな」との思いでした。「いざ出陣」の笑顔、実に魅力的です。



久保先生の指揮のもと、結果は金賞。全国大会には残念ながら手が届かなかったものの、昨年度の銀賞からの進化は見事なものです。おめでとう。



かつて通信に書かせてもらいましたね。この秋から中学校を離れ、地域移行された部活動について中学校の校長先生方から伝えられた言葉。「成し遂げて、嬉しくてたまらない歓声をあげたり、悔しくて泣いたり、そういう経験が確実に中学校から減るんです。私たちは見られないのです」との嘆き。私はしあわせですね。

ちなみに先行的に部活動を地域移行した阪神間のある自治体では、何かしらの団体に所属して活動する中学生の割合は約4割だそうです。無関心でいられない私は今年の8月もいくつかの中学校を訪問させていただきました。部活動の消えた夏休みの中学校。まるで無声映画を見ているかのように音のまったく聞こえない校舎がありました。閑散とした校庭には夏の日差しだけがじりじりと照り付けていました。「子どもたちは何処に行ったのだろう」そう思いました。「ひとりひとりに何処か居心地のよい居場所はあるのだろうか」と。

そんななか、中央区内のある中学校では次々と生徒たちが登校してきます。「なぜですか？」校長先生にそう訊ねると「居場所づくりも兼ね、先生方が『勉強会をしようか』と提案してくれたのです。すると大勢の生徒が登校してくれてね…」との話。その校長先生は偶然にも私の中学校時代の同級生でした。少し甘えた私は教室に集まり学ぶ生徒たちの顔を間近に見せてもらいました。そこに紛れもなく『学校』はありました。無防備にすべての葉を落とし、茎1本で空に伸びあがる日までは、『学校』は大切だと私は考えているのです。

「彼岸花に恋い焦がれて」

県立神戸高等学校長
新谷 浩一

○ 2学期の始業式で伝えたかったこと

1学期終業式は全校放送でしたが、このたびの始業式は空調の調子がよいため、講堂で実施できることになりました。なんと言っても皆さんの顔が見られましたし、さらにスクリーンいっぱい花を投影した瞬間に沸き上がったどよめきに、「対面で良かった」と思った私です。いつも素敵な反応をありがとうございます。

2学期の始業式にあたり、皆さんにまずはお礼を言いたいと思います。誰1人、生命を落とすことなく今日を迎えてくれてありがとう。とても嬉しいです。いつも僕はお願いしていますね。「自分の生命と他人の生命を大切にしてください」と。お願いを聞いてくれて、こうして会えて本当に嬉しいです。ありがとう。

1学期の終わりからほぼ40日が経過しました。あの日と少し違う自分を感じていますか。学習面で「成長した」という人もいるかもしれません。部活動の技術面で「成長した」人もいるかもしれません。また、これまでに縁のなかったことに触れて、「自分の新たな一面を発見できた」という人もいるかもしれません。すべてOKです。皆さんの素晴らしい夏に心から拍手を送ります。

一方、あまり変わらなかったな、という人もいるかもしれません。残念ながら、僕も同じです。この秋は成長できるよう、一緒に頑張りましょうね。



さて、今日は僕の好きな花について話をしようと思います。この花です。彼岸花、曼珠沙華とも言います。この花には大きな特徴があります。名前の通り、この花はお彼岸になると前触れもなく花を咲かせ、そしてお彼岸が終わる頃には忽然と姿を消します。まるで課された宿命にまっすぐに向き合うような花。『物事は自分の思惑通りにはいかない』という象徴のような花。その時が来れば、その日その場所でただ花を咲かせる。そういう花なんです。しかも花をひらく時、彼岸花は無防備にすべての葉を落とし、茎1本で伸び上がります。

孤独であろうと思います。心細いであろうと。でも、そんな素振りは少しも見せず、まっすぐに立ち、そこで艶やかな花を咲かせます。人も同じなんです。今は近くにお父さんなりお母さんなり、見守ってくれる人、自分が困っているときに助けてくれる人がいるかもしれません。でも、いつかは皆さんもこの彼岸花のように、自分1人で立たないといけないう日が来ます。この夏も悲しいことに親御さんを亡くされた生徒がいます。

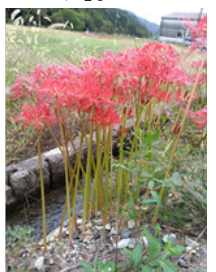
ここで思い出してほしいのが『自重自治』です。もちろん違う生き方もあります。なりゆきまかせで生き、他人の眼は気にしないので人からは「品がない」と言われ、「人に注意されたら改める」そんな生き方。でも、どうせなら格好よく生きませんか。自らの使命を重んじ、品性を保ち、自らの定めにより自らの行為を律する存在。自らのやるべきことに真摯に取り組み、自分がどのように見られているかを常に意識して行動できる存在。そんなふうになりたいと思いませんか。今、胸章、襟章をつけている人は心の中で自分自身に拍手ですね。

僕はそうでありたいと思うと同時に、皆さんにも「そうであってくれたら嬉しいな」と願っています。自分ひとり変えられない者が、自分の周りや日本、ましてや世界なんて変えられるとは思えないからです。

まもなくお彼岸です。もし道ばたにこの花を見つけたら、今日の僕の話思い出してくれると嬉しいです。

壇上にあがり、マイクを握るまで私は逡巡していました。学習について語るか、見送るか。しかし、「語るべき」と決断しなかった私を助けてくれたのは、次にマイクを持った自治会長でした。「皆さん、この後は待ちに待った課題・実力考査です。1年生は平常心、2年生は向上心、3年生は初心を大切に頑張りましょう」。

思わず拍手喝采してしまい、皆さんから笑われてしまいましたが偽らざる私の本心です。ありがとう。また、協議会議長は私の話の後、小声で「襟章つけてきて、よかったあ」と呟いていました。これも嬉しかったですね。さあ、秋です。今年も彼岸花を探さなくちゃ、そんな気分の私です。



「
」
～ Now is the time to stand up. ～

高校教育課長
新谷 浩一

○ 秋の日に道端で

今年も出会うことができました。曼珠沙華。その姿を見かける度に頭に浮かぶ句が僕にはあります。後藤夜半という俳人の曼珠沙華を詠んだ句。教えてくれたのは岡野幸弘先生でした。曼珠沙華、いわゆる彼岸花は季節が来ると前触れもなく花を咲かせ、そして忽然と姿を消します。課された宿命にまっすぐに向き合う花。『物事は自分の思惑通りにはいかない』という象徴のような花。

「人も同じなんですよ」岡野先生はそう教えてくれました。「特に管理職になるという道を選んでしまった以上、咲くべき時には咲かないといけないのです」と。その時がくれば、その日その場所でただ花を咲かせる。それは命じられたら直ちにその集団の先頭に立つ管理職の姿と同じであると。「いや、そのポジションは少し不本意で…」とか、逆に「自分には荷が重すぎるのですが…」とは言えません。

そのうえ花を開く時、曼珠沙華は無防備にすべての葉を落とし、茎1本で空に向かい伸び上がります。孤独であろうと思います。心細いであろうと。でも、そんな素振りは見せず、まっすぐに立ち、艶やかな花を咲かせます。「私はそうでありたいと考えています。どのような時もそうであろうと」

そう言えば御逝去される直前、「病室へのお見舞いは控えてほしい」と言っておられましたね。「今の姿は人に見せたくないから…」先生はそういう思いであられたと、後日、人づてにお聞きました。

岡野先生、僕の話をしてもらいますか。2年と半年前、阪神教育事務所長という内示をいただいた時、僕の脳裏を掠めたのはあなたが教えてくれたこの句でした。本来、阪神教育事務所長という役職はキャリア的にも年齢的にも自分には畏れ多いものです。日々、義務教育に関わる様々な案件が舞い込み、そのうち多くは自分のキャパシティを越えるほどの判断力が求められます。身震いがしました。

それでも1年間、あの場所で咲ききることが出来たかなと思っています。すべては阪神教育事務所の温かい仲間や阪神7市1町の教育委員会、学校現場の先生方が常に本音で向きあってくれたお蔭です。

昨年の春には高校教育課長という内示をいただきました。これも畏れ多い内示です。でも、僕の腹はすっかり決まっていました。曼珠沙華のようにシュッと立っていようと。そして今、判断に困るときも不安な顔は見せずに、「なんてことはないよ」って顔をするよう心がける自分がここにあります。もちろん強がりです。それでも真っ直ぐに立っていること、それ自体があなたからの大切な教えなのです。

Now is the time to stand up.
あなたに憧れてこの道を歩み始めた以上、こんなふう生きるしか他に術はないですね。

僕らは日々、様々な選択をしながら生きています。ひとつひとつ、自身の選んだ道が果たして正しかったのか、そう思い悩むのは誰も同じでしょう。ひとつも選択を間違えないのは、きっと至難の業です。でも、今あゆむ道を間違いにしないように、日々を生きることは誰にでもできることじゃないのかな、僕はそう考えたりします。

秋の日、道端の曼珠沙華に岡野先生を思い、自身があゆんできた道を振り返りました。今はただ選んだ道を間違いにしないよう生きるしかないな、そう思っています。

